



2022年5月25日。

京都市立芸術大学・沓掛キャンパスの中心にある池の中から、二体のハニワが引き上げられました。

ひとつは、美術家の藤浩志さんが1985年の大学院修了制作のデモンストレーションの一環として制作したハニワ。

「大学」のメタファーとして作られたこのハニワは、藤さんの手で沓掛キャンパスの池に沈められ、

以来、京都市立芸術大学の一部のように歴代の学生たちに親しまれてきたようです。

もうひとつのハニワは、それから30年後の学生たちが「総合基礎実技」の授業で藤さんのハニワをテーマに選び、

リサーチして制作したもの。二体のハニワは池に並んで結婚式を挙げ、その後はずっと池の中に隠れていました。

姿が見えない間も、学生たちはハニワを語り継ぎ、新入生でもその存在を知っているといます。

多くの学生、講師、職員、卒業生たちが見守った二体のハニワ引き上げは、

なにか特別なイベントというわけではなく、京芸の日常そのものの光景でした。

芸資研のYoutubeチャンネルで、その様子の記録映像を公開しています。



動画制作：河原雪花 写真：清水花菜
企画・撮影：京都市立芸術大学 芸術資源研究センター

